

# 3 話し合い活動（語り合うことの重要性）

子どもたちがこれから進む社会において、コミュニケーション力やチームで課題解決できる力が求められています。加えて、学校においても、これらの力を育てることは学校生活に活力をもたらし、ひいては授業の質を向上させていくことにもつながっています。話し合いを授業や学校生活にうまく取り入れましょう。

## ポイント① 学級活動(1)を計画的に取り組む

### 確認

- ①学級活動(1)を意図的・計画的に行う
  - ・児童生徒が主体的に取り組む力を身に付けるように、目標をもって話し合い、少しずつ力を向上する。
- ②1年間を通じて、みんなが輪番で司会団を経験できるように工夫する
  - ・小学校中学年以上は、できるだけ司会を子どもに任せ、担任は困ったときの補助に回る。
  - ・中学校では、委員や係も活用し、提案・話し合いの場面等を意図的に設定する。

※「話し合いの柱づくり」の際には、教師は司会団に丁寧に関わることが重要です。

子どもたちに話し合いを任せるには、教師の適切な助言が重要です。各学年の段階において適切に指導を重ね、「自分たちで話し合える」という自信を育てましょう。

★「小学校で身に付けさせよう  
中学校でさらに充実させよう」  
大人でも、司会進行は緊張するものです。話し合いの技術の習得は、子どもたちの大きな自信につながります。

## ポイント② 集団決定したことは必ず実行する

### 確認

- ①学級活動(1)の話し合いで折り合いをつけて集団決定したことは、必ず実行させる
- ②実行した後に、活動を振り返らせる
  - ・良かった点やうまくいかなかった点などを出し合い、次への意欲を高める。

※「決定したことは必ず実行する」はとても大切なことです。それが保障されることによって、子どもたちは本気になって話し合いを行います。よく考えて話し合うことの大切さ、みんなが納得することの必要性、集団決定の重さなど、多くを学ぶことでしょう。

「ドッジボールが顔に当たると怖いから、男子は左手で。」  
やってみるとあまり楽しくない学級ドッジボール大会になりました。  
しかし、教師がここで、勝手にルール変更してはいけません。ここに、「学級が育つチャンス」があるのです。



### ポイント③

## 学級活動の話合いは、学習集団を育てる

確認



#### ①教科の授業においては、ねらい（付けたい力）に合った話合いを取り入れる

・話し合う力が高まると、教科のグループ活動等も充実し、学習集団が育ちます。

《話し合わせる際には次のことを明確に》

- ・何を話し合うのか
- ・何のために話し合うのか
- ・話合いによってどんな力を付けるのか

※友達には、自分にはない思いや良い考えがあることを実感させましょう。友達の良い点を取り入れて、さらに思考を深めさせましょう。

学習集団を育てるには、ルールや方法を的確に指導することが重要です。特に教科担任制である中学校においては、学校全体で共通して取り組むことが大切です。

#### ★「すべ(術)を身に付ける」

授業は学習内容だけでなく、すべ(術)を身に付けることが大切です。例えば、「Aさんの意見の言い方がよかった」と、友達の姿から、話す方法を体得することなどです。

### ポイント④

## 期待されると子どもは育つ

確認



#### ①期待をもち、見守る

・児童生徒の発想の豊かさに、はっと驚かされるのがよくあります。集団決定する際には、「期待しているよ」と、見守る姿勢でいたいものです。

#### ②認める言葉がけをする

・話合いの過程をとらえ「なるほど」と認めることで、話合いが活性化します。

※期待され認められることで、学級集団は育ちます。

困っていると思って話合いに助け舟を出すことが、子どもの自立の妨げになる場合もあります。そうかといって教師が席をはずしてしまうのは、放任しているのと同じです。「見守ること」と「適切に助言すること」が大切です。

#### ★「どちらも生かした新しい考え」

Aの考えも良い、Bの考えも良い。学級集団が育つと、どちらの意見も生かすことはできないかと、新しい考えを生み出そうとするようになります。

### 「他者との関わりを通して児童生徒は育つ」



瞳を輝かせ、一生懸命に歌う姿、響く歌声。

堂々とした表情を見ていると、ここに立つまでに皆で困難を乗り越えてきたことが感じ取れます。

「心を合わせよう。」

と、言うのは簡単ですが、「どのように心を一つにするか」は難しい。互いに、言葉を通して気持ちを伝え合う。そんな積み重ねを通して、児童生徒は育っていくのです。